

C— 8 積雪地方におけるコンクリート住宅内の湿度変化について

—特に暖房中止後の状態—

新潟大 大島 愛子

1. 住宅内湿度はガス・石油・電気・煉炭などのストーブによる暖房の結果、ガス最大、電気最小であった。また、その増加は暖房後30分において著しく、暖房継続中は漸次低下し、3時間以後は極めて緩慢となる。

そこで今回は、湿度に対して性格の異なるガスおよび電気ストーブを取りあげ、暖房中止後の湿度変化を捉えようとした。また、一般に用いられている厚地カーテンは保温効果のみでなく、調湿作用もあるものと考え、これを使用した場合を比較してみた。この場合、カーテンの内部（暖房側）と外部（壁側）との湿度も比較してみた。

2. 実測は積雪地長岡市に建つ2階建コンクリート住宅の階上の一室とし、電気湿度計およびサーミスターを用い遠隔計測を行った。

3. その結果、暖房中止後も湿度の減少は継続し、中止後2時間より上昇をはじめることを知った。

カーテン使用の場合は、使用せぬ場合に比し、飽和蒸気圧との差が大であった。すなわちカーテンによる調湿効果は明瞭となった。

また、カーテン外部（壁側）の湿度は、暖房中はカーテン内部より湿度の増加は少なく、暖房中止後は大となった。